



地域日本語支援ニュース こだま 第 267 号

2014.12.11



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる■

インタビュー「ずっと日本で生きていく～故郷での日々を原点に～」

チン ハウ ルン氏

2■進学進路ガイダンス情報■

高校進学説明会情報 \*更新情報はありません

=====

1■ともに生きる■

インタビュー：ずっと日本で生きていく  
～故郷での日々を原点に～

チン ハウ ルン

-----  
ハウルンさんはミャンマー西部チン州の村に生まれ、高校の途中までをそこで過ごしました。そして、ヤンゴンでの大学時代に民主化運動に参加したことで、そのままミャンマーに住み続けることが難しくなり、2008年9月、19歳の時に叔父さんを頼って単身来日しました。その後わずか6年余りの間にしっかりと日本語を身につけ、今は都内のユニクロ店で社員として働いています。そんなハウルンさんに、日本語習得のこと、仕事のこと、将来のことについて伺いました。-----☆☆☆☆☆☆☆☆

——来日してすぐの頃は、どんな生活でしたか。

日本で生活していた叔父を頼って来たのですが、来日後3か月は、叔父の家

で独学でひらがなやカタカナを勉強していました。それから、蕎麦屋の洗い場で働きながら、社会福祉法人さぽうと 21 の集中日本語コース（UNHCR が委託）に通って、そこで日本語の基礎をしっかりと学びました。

—— 今はすっかり日本語がお上手ですが、どのように勉強されたんですか。

さぽうと 21 のコースの後、とにかく早く日本語をマスターしようと思い、日本語学校に半年間通って、日本語能力試験の N3 に合格しました。その後しばらくは、特に日本語の勉強はしませんでした。翌年の後半から、また能力試験の準備を始めて、12 月の試験で N2 に合格しました。同時期に難民認定を受けることができたので、翌年 4 月から半年間、難民の定住支援プログラムを受講しました。

その後ユニクロに就職し、今年 7 月に N1 に挑戦して、無事合格することができました。机の上での学習は、もちろん役に立ちましたが、蕎麦屋での接客や、今働いているユニクロでの日々の業務の中で、実践的な日本語力がついたと思います。でも、N1 に受かったと言っても、まだまだ知らないことばがたくさんあって、これからも勉強を続けなければならないと思っています。

—— 仕事の上での失敗談はありますか。

苦い経験として思い出すのは、ユニクロでインターンとして働き始めてから 3 か月ぐらいの時に、わたしが対応したお客様からクレームが来たことです。そのお客様はパンツの補正をされたんですが、仕上がったものは縫い目がきれいではありませんでした。本来なら、対応したわたしが補正担当者に縫い直しを頼まなければならないんですが、店長に相談もせずに、そのままお客様に渡してしまい、事後の報告もしていませんでした。この経験で、日頃よく耳にしている、実感として理解していなかった「ハウレンソウ（報告・連絡・相談）」の大切さが身に染みてわかりました。

—— では、嬉しかった経験は？

ある日年輩の女性のお客様が、お友だちにパンツをプレゼントしたいということで来店され、わたしが対応しました。その後、店のお客様アンケートはがきに、その方が「友人にぴったりのパンツを選んでもらってよかった」と感想を書いて送ってくださったんです。自分が買う立場だと、お店からもらうアンケートはがきを出すことなんてなかったんですが、売る立場になって初めて、お客様の生の声をいただくありがたさ、大切さがよくわかりました。

—— 将来のことを伺います。ハウレンさんは、今後も日本で生きていけます

か。

はい。来日して、まだ一度もミャンマーに帰っていないので、親族や友人に会いに帰りたいとは思いますが、戻るつもりはありません。このまま日本に根を張って生きていきます。でも、今の私の原点にあるのは、故郷チン州の美しい風景です。

あの野山を駆け巡った幼い日々のことは、これからも忘れることはないと思います。

(聞き手 公益社団法人国際日本語普及協会 宮下しのぶ)

☆ 皆様からのご感想をお寄せください。 ☆

---